2008年11月　家族教室

リハビリテーションと
就労支援について

ハートクリニックデイケア
池沢佳之

今日のお話

- リハビリテーションとは？
- 精神科リハビリテーション
  - ・・・特に精神科デイケアを中心に
- 就労支援について
  - ・・・施設
  - ・・・制度
  - ・・・実例

リハビリテーションとは？

- リハビリテーションの語源
  ・・・本来あるべき状態への回復。権利の回復。教会からの破門の取り消し等の意味合いがある。「ルネサンス（再生）」が最も近い用語である。

リハビリテーションとは？

- 従来、医学的リハビリテーション と 社会的リハビリテーション 、職業的リハビリテーションという3つの概念がある。

→現在はWHOによる国際障害分類（IDH）が国際生活機能分類（ICF）へと改訂されてから、「生活機能の改善・向上」という概念へと変化した。また、「環境的要因」も大きなポイントである

精神科リハビリテーションとは？

- 精神障がい者の「生活機能の改善・向上」を目的とする。
- 何故、精神障がい者にリハビリテーションが必要なのか？

精神科リハビリテーションとは？

- 精神科リハビリテーションの代表的な技法

・精神科デイケア
・作業療法
・SST
・認知行動療法
・グループワーク
・職業的アプローチ（リハビリテーション）

精神科デイケアとは？

- デイケアの定義とは？

簡単に言うと・・・

精神障がいを有する者の生活能力の回復・向上、自立生活と社会参加促進のための治療・援助の場

→従来の考え方の３つの概念のうち、特に医学的・社会的リハビリテーションを包括する役割を担う

精神科デイケアとは？

- デイケアに役割

①外に出るきっかけになること
②色々な人と出会えること
③様々なプログラムに参加出来ること
④自由に過ごせる場があること
⑤スタッフに相談できること
⑥医療機関スタッフの目が届いているということ
⑦食事を提供すること
⑧目標を持てるということ
⑨他の機関や同じ機関の中のサポートとの連携

精神科デイケアとは？

- デイケア機能の転換期

・日中の居場所としての機能から社会参加への準備としての機能への転換？

・背景には地域生活で活用できる施設の増加や制度面での整備などが・・・

就労支援について

- 精神障がい者のリハビリテーション活動は、医学的リハビリテーションと社会的リハビリテーションだけでは完結しない
- 自立のために職業的の問題への解決が必要

就労支援について

- 就労支援の施設

働く場所として・・・

・地域作業所／授産施設

・特例子会社

・就労継続支援事業所（自立支援法）

就労支援について

- 就労支援の施設

相談や評価、訓練をする場所・・・
・ハローワーク（公共職業安定所）
・就労支援センター（横浜市7か所）
・神奈川県障害者職業センター（相模原市）
・神奈川県障害者就労相談センター（石川町）
・就労移行支援事業所（自立支援法）

就労支援について

▣ 就労支援の制度

・障害者合同説明会
・公共職業訓練（トライ！）
・トライアル雇用

ハローワークで
情報が得やすい

・精神障害者社会適応訓練事業（保健所／協力事業所）
・職業準備支援事業（神奈川県障害者職業センター）
・ジョブコーチ支援事業（神奈川県障害者職業センター）
・就労準備事業（神奈川県精神保健福祉センター）

就労支援の実例①

- 30代男性（正社員希望）

- 主治医のすすめでデイケア参加
- 当初は落ち着きなく、疲れがち（週2日程度参加）
- 次第に体力が回復（週5～6日参加）
- 正社員に挑戦→失敗
- 現状を認識→目標を設定→段階的に進めていく
- 本人の当初の希望よりも若干負荷のかからない仕事を選択→アルバイト継続中

就労支援の実例②

- 30代男性（正社員希望）

- デイケア参加は1日のみ。それ以外は仕事探しを自主的に行う→なかなかうまくいかない
- デイケア参加2年ほど経過後、面接
  ・・・生活のリズム作りのため参加日数の増加
  ・・・予定表作り（リズムとPC操作）
  ・・・プログラムと定期面接の併用
- しかし、職探しは本人のこだわり強いが・・・
- 最近は、就労支援についての社会資源の利用も検討

就労支援の実例③

- 20代男性（正社員／アルバイト希望）

- デイケア参加日数の増加（週2・3日～週7日）
- アルバイトに挑戦→短期間のアルバイト
- 再度アルバイトに挑戦→失敗
- アルバイト再チャレンジのため計画立案及び練習
- 障害者雇用を検討→障害者手帳を申請
- 段階的な就労のため、作業所利用
- デイケア・作業所併用→就労支援センター利用
- 実習という形で企業にて就労予定

まとめ

- 精神障がい者関連のリハビリテーションはすすんできているので、多能なアプローチが可能になってきている。

- リハビリテーションの過程も個人差が大きいので、「その人」の「その時」に応じた利用の仕方が大切

次回の家族教室は
平成20年12月7日（日）
「気分障害について②」です

皆様の参加をお待ちしています！